

下文『醒めて踊れ』で『日本および日本人』を理解する。

場(C' 西歐近代)

【ハードウェア:D1近代化】

* 場(C')との関係、即ち右線「近代化D1適應正常」の反對(D1の至小化)が、似而非近代性=近代化適應異常

【ハードウェア】:F

近代化(D1)の別名...近代戦・近代的戦争・國家主義・個人主義・絶對者・等

*「近代化(實在物:D1)の必要條件は技術や社會制度(潜在的言葉:F)など、所謂『ハードウェア』のメカニゼーション(機械化)、システムライゼーション(組織化)、コンフォーマライゼーション(劃一化)、ラショナルライゼーション(合理化)等々の所謂近代化(潜在的言葉:F)に對處する精神の政治學(Eの至大化)の確立、即ち所謂『ソフトウェア』の適應能力(Eの至大化・附合ひ方・So called)にある」。

『日本および日本人』(全三P192)

*「近代戦(F)に馴れない(not so called=Eの至小化)人間(「和を原理とする仲間うちの生活習慣」の日本人)が近代的戦争(F)に手を出した結果が、殘虐不法な戦争を招來し(似而非近代性=近代化適應異常)、國家主義(F)に馴れない(not so called=Eの至小化)國家が國家主義をまなんで超國家主義(似而非近代性=近代化適應異常)になった。同様に、權利義務の契約(Eの至大化)にもとづく個人主義(F)に馴れない(not so called=Eの至小化)人間が、その制度(F)や法律(F)を移入(Eの至小化)すれば、それはたんなる利己主義を助長する(似而非近代性=近代化適應異常)にしか役だためのです」。と同様に絶對者でもないもの(天皇)が、無意識のうちに、西洋流の神(F)に對抗し、それに牽制されて(not so called=Eの至小化)超絶的な風貌(似而非近代性=近代化適應異常)を呈してくる(P194)」(即ち基督教「絶對神」への適應異常)。

【ソフトウェア:E】

* 対象(F・物・言葉)との附合ひ方、即ち左線「so called」の反對が「not so called=Eの至小化」。